

学生氏名

山口 真

(富士ゼロックス株式会社)

主査 高木 晴夫

副査 矢作 恒雄

國領 二郎

所属

高木 晴夫 研究室

## グループウェアの可能性と限界

### —今後の組織において求められるグループウェア—

企業で利用されている情報システムはメインフレーム主体からW/S、PC併用へと、「ダウンサイジング」「集中処理から分散処理へ」の流れをもって変容している。その変化の中で、現在企業の中では、PC、W/S等が渾然一体となって利用されている。それらを有機的に繋いで、効果に活用しようと模索した結果現われたのがグループウェアである。つまりグループウェアは情報システムの先端の芽といえるのではないだろうか。

グループウェアというものに焦点を当てたときに、現実企業内のグループ（組織）の活動を効果的に支援することが可能で、これからの企業組織の運営に対して、真に効用を発揮し得るのであろうか。どのような場合に、その効用を発揮するのであろうか。

本研究では、実際にグループウェアを活用している企業9社を取材調査し、グループウェアは実際にはどのような企業のどのような場面で活用されているのか、どのような有効性を発揮し（可能性）、またどのような問題点をはらんでいる（限界）のかということを取り上げ検討した。

また、その現場の活用状況からみえるグループウェアの今後の展望と、グループウェア活用のための提言をまとめた。